



ぎふ日線

精密金型などを手がける大垣精工(大垣市浅西)の上田勝弘会長(84)が、韓国ソウルであった日韓経済人会議出席のため5月に訪韓し、尹錫悦大統領との接見時に韓国の金型業界への貢献を称えられた。約40年にわたり同国の学生や技術者の研修を受け入れ、技術指導や人材育成に貢献してきたことが背景にある。改善に向かう日韓の外交関係と同様に明るい気持ちにさせてくれる話題である。

日韓経済協会などが主催する

金型業界、長年の日韓交流

教え教えられ深まる絆

日韓経済人会議は両国経済界の交流を目的に毎年開かれ、同協会副会長の上田会長は副団長として参加。役員とともに臨んだ接見で、尹大統領は開口一番こう話した。「上田副団長には韓国の金型業界のために技術指導をしてもらい、基幹産業の発展

型コロナウイルスの影響で現在は中断しているが、いつでも再開できる体制を整えている。インターシップを始まりとする新たな展開も生まれている。学生時代に同社へのインターシップの経験を持つ鄭日権取締役電動化事業本部長(63)は

韓国企業を渡り歩いた後、2019年6月に同社に入社。電気自動車のモーターコアの分野で世界的技術を持ち、同社には引き合いが殺到しているという。まるで物語のような不思議な縁を感じさせる。

尹大統領と握手した時の写真

に大いに貢献してもらった」。突然の言葉に上田会長は驚くばかりだったという。

上田会長の韓国との交流は、約40年前に同国の展示会に出展したことが始まり。取引も交流も拡大し、研修生や金型を学ぶ大学生のインターシップもプライベートで開始し、約40年間で千人超を受け入れてきた。新



を手に上田会長は話す。写真。『40年前は教え、今は教えられ、そのおかげで会社も多忙となり世界的市場に向け生産をしている。これはお互いの効果ではないか』。教え、教えられ、学び合い、尊重し合う、その先に互いの発展がある。長年の交流活動から生まれた絆は深い。

(西濃支社長 山田孝二)